

第72回「萩句会報告」 (順不同)

日時 2015年5月11日 (月) 14時～17時

兼題「若葉」

- 川井素山 ○京の宿朝餉に添ふる初茄子^{なすび}
若竹の皮脱ぎかけの青さかな
銀嶺の越後平野の田搔きかな
柏手の風に流るる山若葉
- 保井寶正 ○足音を聞きて育ちし若牛蒡
葉桜やしばし仮寝の昼下がり
竹の子や昔の技の鋏さばき
画してなほ若葉描がけぬ老いの筆
- 青木英林 ○探鳥の森に若葉の薫り満つ
新茶には天地の恵み詰まりをり
庭の奥泰山木に花浮かぶ
菖蒲湯の香りに釣られ顔沈め
- 後藤克彦 ○迅風にたんぽぽの絮城^{わた}越ゆる
初燕忘れずに来る駅の軒
黙々と若葉探して毛虫這ふ
鯉幟遊ぶ仲間も減りし里
- 佐久間喬 ○鯉のぼり横並びして富士ながめ
万緑の底をひたすらバス走る
草野球子ら声高し若葉風
入学の記念樹植えて乾杯す
- 永井正孝 ○微風^{そよかせ}の垣の若葉に触れて行く
夜桜と壕^{ほり}に映えたる櫓かげ
墓碑陰に首曲げて待つ白き百合
日を浴びて花に囲まる山の城

- 丸山酔宵子 ○気球飛び浅間連山五月晴れ
原爆に耐えし鐘の音新樹かな
海眼下龍馬の道にツツジ咲く
岩垣を彩り包む芝桜
- 菊地崇之 ○太くても短くも旨し竹若芽^よ
あの甘きあのサクサクの穴子かな
新緑や酒場に急ぐ歩好会
一撃の筍掘りや土産かな^{たけのこ}
- 牧野里山 ○青空や竹の子掘りて腰重く
夕涼み酒と肴で語り合い
夕暮の辛夷の並木光をり
若人の座布団帽に若葉映え
- 佐久間たか子 ○走り茶に忌日偲んで玉の味
風薫る背筋まっすぐペダル漕ぐ
遠きほど西湖に映える山若葉
同窓会揺れてつつじの裾模様
- 佐伯武雄 ○断捨離に勝る未練の衣更え
若葉風香りをのせる熟女かな
鯉のぼり混み合ふ仲間哀れなり
空元気爺が出しゃばる子供の日
- 大山竜海 ○石段に若葉映えたる里の寺
山寺の里に残れり桜いとしき
北の春椿も桜も咲き競う
しずけさや里の桜のけなげなり
- 吉田啓悟 ○柿若葉とうふを水に沈めたる
足音を覚えてくれし錦鯉
江戸風鈴かなたより空かげり
白靴のくつべらなしに絵画展

山本草風 ○大宙に初太刀振うつばめかな
散る桜永久^{とわ}の思い吉野山
日本人万古不易の桜かな
生い茂り宙をも染める若葉かな

金森純女 ○若葉雨つまの言葉のふと途切れ
ベランダに鯉のぼり揺れおむつ揺れ
気の早いまひまひつたふ石の壁
根の太きたけのこつかむをみなかな

中山すえみ ○高瀬川舞妓のたもとほたるかな
柿若葉重なりし透くみどり
ぬれ光り雨粒叩くあじさい葉
打ち水見しぞ人なき路地^{とみち}かな

次回 「萩句会」

日時 2015年6月8日(月) 14時～17時
兼題『夏帽子』『麦わら帽』一句
当季雑詠三句 計四句